






# 医動物・種類同定検査のまとめ

## —平成 22 年 7～9 月分—

医動物担当では、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成 22 年度 7 月から 9 月の種類同定検査件数は、14 件でした。依頼された 14 検体の内訳は昆虫類 11 件(ハチ目 4 件、チャタテムシ目 3 件、コウチュウ目 2 件、ハエ目 2 件)、その他 3 件でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
2 階の天井に虫が大量にいるのを発見した。	 有翅虫、黒色、約 9mm	ヤマアリ属の有翅虫*(雌成虫) (ハチ目)  *翅の生えた成虫のこと	本属は地中に巣を作るものや、地表部に枯枝や枯葉を使った塚を作るものもいる。アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雌雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。
マンション(24F)で、キッチン建具付近からアリが出てくる。	 働き蟻、黄褐色、約 2mm	ヒメアリの働き蟻 (ハチ目フタフシアリ亜科)	働き蟻の体長は約 1.5mm。人家周辺の石下や枯れ枝の芯に孔を開けて巣をつくる。わずかな隙間から屋内に入り、砂糖、菓子類、乾肉などを食害する。梅雨期になると、家の中の隙間を巣にすることもある。関東地方以南に分布する。
保育園 園庭の芝生付近で約 20 匹の虫が飛び回っている。	 雄成虫、黒色黄色の紋、約 18mm	ヒメハラナガツチバチ雄成虫 (ハチ目ツチバチ科)	雄成虫の体長は 11～19mm。雌成虫の体長は 15～22mm。コウチュウ目のマメコガネ属やスジコガネ属の幼虫に寄生する。本州、四国、九州に分布する。
リビングルームのテーブルでアリを発見した。	 働き蟻、褐色(頭胸部)、約 2mm	イエヒメアリの働き蟻 (ハチ目フタフシアリ亜科)	働き蟻の体長は 2～2.5mm。高断熱性の建築物などの家屋に発生が見られる。巣は壁や家具の下などの 1mm ほどの隙間につくられる。肉・魚・油脂などを好み食害する。
家屋内で発生した。	 成虫、褐色、約 1mm	ヒラタチャタテ (チャタテムシ目コナチャタテ科)	体長 1.0～1.3mm。翅はなく、体は褐色。完全単為生殖のため雌のみが存在する。穀類や貯蔵加工食品、わら製品、ダンボール等広範囲のものを加害する。多湿を好み、カビを食べる。屋内に生息する最も普通の種。世界各地に分布する。



相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
家屋内で発生した。	 成虫、褐色、約1mm	チャタテムシ類の一種 (チャタテムシ目)	体長0.5～10mmの小さな昆虫。多湿を好み、直射日光を避け、木や岩に生じた緑藻類や菌類を食べる。屋内に生息するものは木、竹、畳表などに生えるカビを食べる。 (別事例として、家具についていた虫もチャタテムシ類の一種であった。)
夕方、車のボンネットや車内に虫が現れる。	 成虫、黒色黄褐色帯あり、約3mm	ヒロオビジョウカイモドキ (コウチュウ目ジョウカイモドキ科)	体長は2.6～3.5mm。普通種で、本州から九州にかけて分布する。ジョウカイモドキ科は、成虫、幼虫ともに食肉性で、多くの種の成虫は花にきた小昆虫を捕食する。
家屋内で発生した。 (築1年)	 成虫、茶褐色、約3mm	コクヌストモドキ (コウチュウ目ゴミムシダマシ科)	成虫の体長は3～4mm。体色は赤褐色。穀粉害虫の中でも普通種で、小麦粉などの穀物をはじめ、菓子類、パン類など、多くの食品を食害する。明るい場所によく飛ぶ。近年、新築家屋内に本種が多数生息する事例がみられるが、その原因は不明である。日本各地に分布する。
玄関のインターホんにコバエが多数飛来する。	 成虫、黒色、約2mm	ナガサキニセケバエ (ハエ目ニセケバエ科)	体長2.5～3mm。ごみ溜めや糞、下水溝などの腐敗物から発生する。成虫の生存期間は2～5日と短い。雌成虫は、餌をとらず、羽化後24～30時間後には産卵を開始し、産卵すると間もなく死んでしまう。
調理場で発生した。	 幼虫、半透明、約5mm	ホシチョウバエの幼虫 (ハエ目チョウバエ科)	老熟幼虫の体長は約8mm。体は灰色がかった白色。浄化槽、汚泥の溜まった下水溝など有機物の多い水域に広く発生する。幼虫は日中も活動するが、深夜に最も活発に活動する。成虫も夜間に活発に活動する。成虫は5～10月にかけて出現する。広く日本に分布する。
網戸に白い物質が付着する。	 白色、約1～2mm	昆虫類の分泌物	 対照：樹木のロウ状付着物質、白色、絹糸状
バルコニーに動物の糞がみられる。	 黒色、約2～6mm	コウモリの糞	形態：らせん状(コウモリの糞の特徴) 糞の内部に多数の昆虫片が認められた。 (別事例として、2階屋根付近にみられた糞もコウモリの糞であった。)